

Ⅶ 財務の概要

1 学校会計と企業会計の違い及び学校会計の特徴

学校会計と企業会計の大きな違いはその目的にある。

企業会計は営利を目的とし、営業活動の成績を損益計算書で表し、その年度の収益と費用を正しく捉え収益力を高めることを目的としている。これに対し学校会計は営利を追求することは許されず、教育研究の遂行を目的とし、一般企業よりも高い公共性から安定的かつ永続性を保持した経営を目指すことを目的としている。そのため、文部科学省令による「学校法人会計基準」に従って会計処理を行い、「計算書類」を作成しなければならない。「計算書類」とは資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、及び附属する内訳表、明細表のことを言う。これらの概要は次の通りである。

①資金収支計算書

当該会計年度の諸活動に対応する全ての資金の収入及び支出の内容を明らかにし、更に支払資金のてん末も表すものである。

②事業活動収支計算書

当該会計年度の3つの活動（教育活動、教育活動以外、特別活動）に対応する事業活動収入及び支出の内容を明らかにし、かつ、各年度の収支の均衡を明らかにするものである。

一般企業会計の損益計算書にあたる。

③貸借対照表

当該年度末における資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）の状態、つまり財政状態を表すものである。

2 当該年度の決算の概要

平成28年度の事業活動収支決算を総括した表は下記の通りである。

①教育活動収支：学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入の収入計15億7千390万8千円、人件費、教育研究経費、管理経費の支出計15億518万3千円となったことにより、教育活動収支差額は、6千872万5千円となった。

②教育活動外収支：受取利息・配当金76万1千円、借入金等利息1千340万8

千円となったことにより、教育活動外収支差額はマイナス1千264万7千円となり、経常収支差額は5千607万8千円となった。

- ③特別収支：その他の特別収入408万6千円、資産処分差額・その他の特別支出の支出計53万6千円となったことにより、特別収支差額は355万円となった。
- 以上の収支の結果、基本金組入前当年度収支差額は5千962万8千円となり、基本金は組入額758万2千円、取崩額9千100万円を計上した。
- 平成28年度の事業活動収入合計は15億7千875万5千円、支出合計は15億1千912万7千円である。

事業活動収支計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位：千円)

		事業活動収入の部	
		科目	金額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,198,648
		手数料	18,054
		寄付金	9,559
		経常費等補助金	319,364
		付随事業収入	6,807
		雑収入	21,476
		教育活動収入計	1,573,908
		事業活動支出の部	科目
	人件費		1,109,410
	教育研究経費		304,037
	管理経費		91,736
	徴収不能額等		0
	教育活動支出計		1,505,183
	教育活動収支差額		68,725
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	金額
		受取利息・配当金	761
		その他の教育活動外収入	0
	教育活動外収入計		761
	事業活動支出の部	科目	金額
		借入金等利息	13,408
		その他の教育活動外支出	0
	教育活動外支出計		13,408
	教育活動外収支差額		△12,647
	経常収支差額		56,078

		事業活動収入の部	
		科目	金額
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	4,086
		特別収入計	4,086
	事業活動支出の部	科目	金額
		資産処分差額	536
		その他の特別支出	0
		特別支出計	536
	特別収支差額		3,550
	基本金組入前当年度収支差額		59,628
	基本金組入額合計		△7,582
当年度収支差額		52,046	
前年度繰越収支差額		△3,273,007	
基本金取崩額		91,000	
翌年度繰越収支差額		△3,129,961	

(参考)

事業活動収入計	1,578,755
事業活動支出計	1,519,127